



目 次

-----

- ☆ 近畿分析技術研究奨励賞 . . . . . p. 1
- ☆ 行事予定

  - ・ 第4回 提案公募型セミナー . . . . . p. 2  
「フーリエ変換イオンサイクロトロン共鳴型質量分析研究会」
  - ・ 第5回 提案公募型セミナー . . . . . p. 2  
分析化学とマイクロ波化学 N0.4 -サステナブル社会とマイクロ波化学-
  - ・ 近畿分析技術研究懇話会 第11回講演会 . . . . . p. 3

- ☆ 報 告

  - ・ ‘06年度 第2期 近畿分析技術研究国際交流助成  
14<sup>th</sup> International Conference on Flow Injection Analysis に参加して . . . . . p. 4  
International Symposium on Photochromism (ISOP-07) . . . . . p. 6
  - ・ 第2回 基礎分析化学実習 . . . . . p. 7  
「電子回路の基礎の基礎」
  - ・ 第3回 提案公募型セミナー . . . . . p. 8  
「銅の腐食解析にまつわる最近の話題」
  - ・ 第2回 支部講演会 . . . . . p. 9
  - ・ 第3回 近畿分析技術研究奨励賞受賞講演会 . . . . . p. 10

-----

行事予定

#### 第4回 提案公募型セミナー

##### 「フーリエ変換イオンサイクロトロン共鳴型質量分析研究会」

主催：日本分析化学会近畿支部・近畿分析技術研究懇話会・兵庫県立大学環境人間学部

日時：2008年1月18日(金) 13時30分から17時

会場：兵庫県立大学 環境人間学部 (姫路新在家キャンパス) F202 大会議室

(姫路市新在家本町1-1-12, [http://www.shse.u-hyogo.ac.jp/access/index\\_access.html](http://www.shse.u-hyogo.ac.jp/access/index_access.html))

講演

13:30~14:30

1. フーリエ変換イオンサイクロトロン共鳴型質量分析計 (FT-ICR-MS) —原理と実際—  
(ブルカーダルトニクス株式会社 アプリケーションエンジニア) 齋藤 和徳

14:40~15:40

2. 超高分解能FT-ICRMS を用いた天然水中溶存有機物の同定  
(兵庫県立大学 環境人間学部) 杉山 裕子

16:00~17:00

3. 植物代謝物の網羅的分析にむけたLC-FTICR-MS 分析の応用  
(かずさDNA 研究所産業基盤開発部) 飯島 陽子

参加費：無料 (定員 申込人数が50名に達した時点で締め切らせていただきます。)

申込方法：1) 氏名、2) 勤務先 (所属)、3) 連絡先 (住所、電話、FAX) を明記のうえ下記宛お申し込みください。参加証は送付しませんので、直接会場にお越しください。

申込先：(社) 日本分析化学会近畿支部

〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4 大阪科学技術センター6F

電話06-6441-5531 FAX.06-6443-6685 E-mail mail@bunkin.org

問合先：杉山 裕子 (兵庫県立大 環境人間学部)

電話：079 - 292 - 9418、[sugiyama@shse.u-hyogo.ac.jp](mailto:sugiyama@shse.u-hyogo.ac.jp)

#### 第5回 提案公募型セミナー

##### 分析化学とマイクロ波化学 N0.4 -サステナブル社会とマイクロ波化学-

主催：日本分析化学会近畿支部・近畿分析技術研究懇話会

協賛：京都府地域結集型共同研究事業・ミネルバライトラボ

後援：けいはんな新産業創出・交流センター

日時：2008年2月22日(金)13:00~17:30

会場：関西文化学術研究都市 けいはんなプラザラボ棟4階会議室

[京都府相楽郡精華町光台1-7 電話：0774-95-5111 (代) ]

アクセス <http://www.keihanna-plaza.co.jp/10accessmap/access/index.html>

=プログラム=

あいさつ (13:00~13:05) 日本分析化学会近畿支部長 紀本電子工業(株)社長 紀本岳志

講演 (13:00~14:30)

1. マイクロ波加熱によるVOC ガスの分解除去について  
産業技術総合研究所東北センターコンパクト化学プロセス研究センター  
主任研究員 西岡将輝氏
  2. マイクロ波を用いた難分解性物質の湿式分解—溶液分析法のための試料調製—  
大阪市立工業研究所環境技術課 研究主任 河野宏彰氏
  3. 話題提供 (14:30～15:15)  
石灰触媒を用いた環境調和型のバイオディーゼル燃料生産方式の開発  
京都府地域結集型研究事業研究員 高津淑人氏
- 休憩 (15:15～15:30)
4. 実演実習 (15:30～17:00)
    - 1) マイクロ波を用いた迅速湿式分解法(マイクロ波反応装置Start(マイルストーン社)  
実験指導：河野宏彰氏、小島氏 (株)マイルストーンゼネラル)
    - 2) Ru 錯体迅速合成(マイクロ波装置 IDX)  
実験指導：増田嘉孝氏、松村竹子氏(ミネラルバイトラボ)
    - 3) 金ナノ粒子のクリーン合成 (半導体マイクロ波装置 クロニクス)  
実験指導：京都府地域結集型研究事業 福岡隆夫氏
  5. 研究交流会 (17:30～18:30)
- 参加費：聴講：一般2,000 円、学生無料 (何れも資料代を含む)  
研究交流会：3,000 円、学生1,500 円
- 申込締切：定員 (50 名) に達し次第締切
- 申込方法：標記セミナー名を題記し、1) 氏名、2) 勤務先 (所属)、3) 連絡先 (TEL・FAX・E-mail)、4) 交流会参加の有無を明記のうえ、下記宛お申し込み下さい。  
参加証は発行しませんので、直接会場にお越し下さい。
- 申込先：社団法人日本分析化学会近畿支部  
〒550-0004 大阪市西区靱本町 1-8-4 大阪科学技術センター6F  
[電話(06)6441-5531, FAX(06)6443-6685, E-mail: [mail@bunkin.org](mailto:mail@bunkin.org)]  
<http://www.bunkin.org/>
- 問合先：(有) ミネラルバイトラボ 松村竹子  
〒619-0237 京都府相楽郡精華町光台1-7  
[電話/Fax：0774-95-0189 E-mail: [mll@gamma.ocn.ne.jp](mailto:mll@gamma.ocn.ne.jp) <http://www.mll.jp/>]

### 近畿分析技術研究懇話会 第11回講演会

共 催：日本分析化学会近畿支部、近畿分析技術研究懇話会  
日 時：平成20年3月6日 (木) 15 時～17 時  
会 場：大阪科学技術センター7F701号室  
(〒550-0004大阪市西区靱本町1-8-4, 電話：06-6443-5324)  
交通：地下鉄四つ橋線「本町」駅下車、北へ徒歩約7分。うつぼ公園北詰  
講 演

1. 「免疫測定法の企業化と産業への応用」(15 時～16 時)  
生物化学的測定法研究会 藤本 茂 氏

2. 「次世代抗体作製法を利用した高感度免疫化学測定法の開発」(16 時～17 時)

三重大学大学院工学研究科 富田 昌弘 氏

ミキサー (17 時～18 時30 分) 同所 6 F 6 0 5 号室

-----  
参加費：聴講：無料、ミキサー：2,000 円 (当日会場にて申し受けます)

参加申込方法：「近畿分析技術研究懇話会第11 回講演会」と題記し、1) 氏名、2) 勤務先、  
3) 連絡先、4) ミキサー参加・不参加の区別、Fax もしくは電子メールにて下  
記宛お申込み下さい。参加証は発行致しませんので、直接会場にお越し下さい。

申込先： 社団法人日本分析化学会近畿支部

〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4 大阪科学技術センター6 階

[電話：06-6443-5531, FAX：06-6443-6685, E-mail：mail@bunkin.org]

## 報 告

### 「'06 年度 第 2 期 近畿分析技術研究国際交流助成」

#### (その4)

☆ 14<sup>th</sup> International Conference on Flow Injection Analysis に参加して

☆ 椎木 弘 (大阪府立大学 先端科学イノベーションセンター・准教授)

☆ ドイツ・ベルリン(2007. 9. 3 ～ 7)

大阪・堺では残暑というより益々盛暑とい  
う 9 月 3 日から 7 日まで、ベルリン工科大学  
(ベルリン、ドイツ)にて 14<sup>th</sup> International  
Conference on Flow Injection Analysis(14<sup>th</sup>  
ICFIA)が行われました。盆を過ぎた辺りから  
インターネットで毎日、現地の気温とユーロ  
をチェックしながら荷造り万全、一時は 170  
円まで高騰したユーロは運よく数週間前か  
ら下落を続け 156 円程度で両替できました。  
関空から約 11 時間でフランクフルト、さら  
に 1 時間でベルリンに到着。30 度を越す堺  
から出発してたどり着いたベルリンは寒く、  
気温は 15～20 度程度で、雨の降る日はさら  
に寒く感じ、吐く息の白さに (堺の暑さから  
逃れられたことを実感し) 感動すらおぼえま  
した。さて、初日は keynote lecture と夕刻  
から Welcome Party がベルリン工科大学の  
ラウンジで開かれ、料理や飲み物は学会が用  
意したものが半分、参加者の持ち寄りが半分  
でした。実行委員長の Frenzel 教授の誕生日

でもあったようで、参加者により様々な言語  
での Happy Birthday ソングや贈り物にご満  
悦の様子でした。今回初めて参加した ICFIA  
は 100 人程度の小さな学会でしたが、今回で  
4 回目の参加という同行した長岡先生のおっ  
しゃるとおり、お互いに非常に仲が良く、居  
心地の良い学会という印象を受けました。日  
本からの参加者も思いのほか多く、あまり名  
刺を持ち歩かない筆者は名刺交換もままな  
らず、後に徳島で開かれた分析化学年会  
(9/19-21)の懇親会での再会と名刺交換を果  
たしたほどです。Flow Injection Analysis は  
筆者の専門とは少し離れた学会でしたので、  
さまざまな学会に参加して感じる疎外感を  
心配していましたが、非常にフレンドリーな  
人が多く、あまり社交的でない筆者にはあり  
がたい学会でした。

2 日目は keynote lecture、オーラルセッシ  
ョンやポスターセッションが行われ、小規模な  
学会の良さでしょうか、熱心で、思いやりの



中央左ヤコブ、中央右フレンツェル教授

ある議論が交わされ、筆者も珍しく一日中講演に耳を傾けました。また、初日、2日目の両日も最後にプログラムされている Frenzel 教授の講演はいずれもエクスカージョンの日程と注意事項に終始し・・・ある意味での熱意を感じ、とにかく 9:00AM に駅に集合ということは胸に刻まれました。

3日目はエクスカージョンで Potsdam へ。学会会場最寄り駅に 9:15 に集合し、各自切符を買い、DB に乗り込みました。混んでいる列車内を団体で移動中、一両丸ごと空席があり、一同なんとなく豪華な座席に着席。あと二駅で到着というところで車掌が来て、そこは指定席であることが発覚！ Frenzel 教授の熱意が伝わったのか、車掌はあと 2 駅ならよろしいでしょう。ということで、豪華なエクスカージョンは始まりました。



クルージングを楽しむ参加者

Potsdam に到着すると、一人一個あまり豪華ではないお菓子を渡され、2つのグループに分かれました。それぞれのグループのナビゲーターはシモンズ教授（米国）夫人、Frenzel の息子ヤコブ。筆者は健脚自慢のヤコブを避け、シモンズ夫人の率いるグループとして行くことにしました。シモンズ夫人の自作のレジメを元にした詳細で親切な市内観光の後、バスに乗り、ポツダム会議の行われた Cecilenhof 邸へ。そして、裏手にある水上バス乗り場から、クルージングへと。水上バスは学会の貸切で、ぼんやりとオープンエアの 2 階席で風に当たりながらきれいな町並みやボートやヨットを眺め、日本で溜まりつつある仕事のことなどつゆ知らず、のんびりと数時間過ごしました。そして再び Potsdam 駅に到着し、解散。

次の日は筆者のポスター発表があり、タイの学生に今何年生だ？と聞かれながら記念撮影。夕刻開かれたパーティーにて最優秀発表者や Talanta 賞などの表彰から、発表タイトル最長賞や最多連名数賞？など、参加者の人数より多いのではないかというほどの表彰があり、疲れ果てながらも楽しく過ごしました。最後に、次回開かれる名古屋大会の実行委員長である愛知工大の酒井先生からの挨拶がありました。そして、最終日では別れ名残惜しみながら、Frenzel 実行委員長による、実行委員、ヤコブや夫人への花束贈呈など、心温まる手作り感いっぱいの ICFIA は幕を閉じました。

二人集まれば話題に上る、各所属機関で求められる職務や成果に追われ忙殺される日々・・・そんな話題とは程遠いのんびりと小さな学会でしたが、自分と自分を取り巻く環境についてのこれまでのこと、これからのことを見つめる良い機会となりました。感じたことを紙面で文章力、表現力のなさで充分にお伝えできないのが残念ですが、何らかのかたちで、近畿支部での活動にこの経験を生かすことができたらと思います。

(その5)

☆ International Symposium on Photochromism (ISOP-07)

☆ 町谷功司 (和歌山大学大学院システム工学研究科物質科学クラスター・D1)

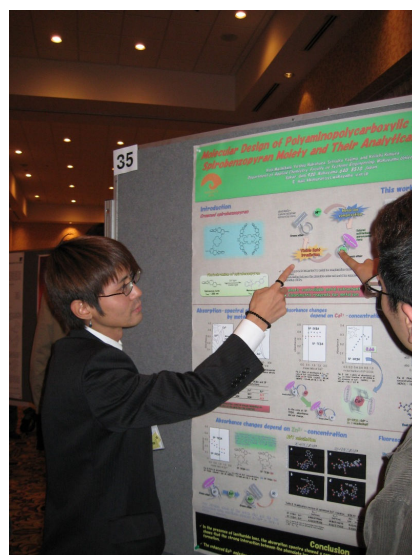
☆ カナダ・バンクーバー (2007. 10. 7 ~ 10)

2007年10月7日から10日までの3日間、カナダ・バンクーバーにおいて開催された「International symposium on photochromism」に参加しました。会議は、バンクーバー国際空港からタクシーで20分ほど、ダウンタウンの中心地にある **Marriott Pinnacle** ホテルで行われました。空港からダウンタウンまでの車中から見える風景…特に、民家に聳え立つ木々の大きさにカナダの雄大さを実感しました。今回、私は初めての海外旅行(?)であり、英語も満足に話せないために不安と緊張でいっぱいでした。しかしながら、学会初日に開かれたウェルカムパーティーでの、グラスを片手に和やかな雰囲気のおかげでその不安は一気に解消されました。学会2日目の夜、私は、「Molecular

**Design of Polyaminopolycarboxylic Acids Bearing Spirobenzopyran Moiety and Their Analytical Applications**」という題目でポスター発表を行いました。発表内容は、多価金属イオンに対して高い親和性を有する比色試薬の開発、および光による物性の制御を目的として、フォトクロミック化合物であるスピロベンゾピランを導入したキレート試薬を新たに合成し、その基礎物性の評価を行ったというものです。ごちない英語ながら、何とか無事発表を終えました。しかし、質疑応答では相手の英語を聞き取れず、自分の考えを英語で伝えることがうまくできず悔しい思いをしました。改めて、英語力の必要性を実感し、英語を話せるようになりたいと強く思いました。



蒸気時計とおじさん  
(ギヤスタウンにて…)



ポスターセッションにて

学会最終日、スタンレーパークやキャピラノ溪谷などを巡るエキスカージョンに参加

し、カナダの大自然を満喫することができました。その夜、バンクーバー郊外のグレイスマウンテンの頂上にあるレストランにて閉会パーティーが催されました。そこでは、ポスターセッションでの悔しさをバネにアメリカ、イタリア、フランス、韓国などから来られた方々と積極的に会話し、記念写真の撮

影などをしました。異文化コミュニケーションの楽しさを初めて知ることができ、私にとっては本当に貴重な体験となりました。

最後になりましたが、このような素晴らしい機会を与えていただきました日本分析化学会近畿支部の方々に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

## 第2回 基礎分析化学実習

### 「電子回路の基礎の基礎」

日時：平成19年10月11日（木）13:00～17:30

会場：紀本電子工業（株）会議室

2007年10月11日（木）、紀本電子工業（株）において、今年度2回目の基礎分析化学実習“電子回路の基礎の基礎”が開催された。昨年度好評を博した本実習の目的は、「基本的なオペアンプによる増幅変換回路の働きを学んだ後、回路を自作し検証する。」とあるが、分析化学会の実習にふさわしく、課題として簡易吸光度計を作成するという興味深い内容であった。紀本電子工業からは、紀本現支部長はじめ多くの社員の皆様が回路の説明、実装の指導にわたって丁寧に指導していただいた。定員10名に対し10名の申込、参加があった。また当日には紀本電子工業で分析装置の作成を行っている学生も参加し、熱心に作成に取り組んだ。

13時より電子回路の基礎の基礎として、抵抗、コンデンサ、オペアンプについての解説を受けた。次に今回用いる光源のフルカラーLED、半導体フォトダイオードなどについての解説、ハンダ付けのコツを学んだあと、15時30分頃からプリント基板への実装を開始した。完成したものはチェックを受けた後、段



階的に濃度を変えた色素水溶液（Methylene Blue, Rhodamine B, Fluorescein）を用いて透過率を求め、吸光度に変換してベール則を確かめたり、透過型回折格子フィルムを使

って波長を変えてみるなど、分析化学の基礎へと導入されていく充実した自習となった。予定では 15:30 ごろまでとなっていたが、参加した皆さんは熱心に実装、ベール則の検証に取り組み 17 時をすぎるとまで実習は続けられた。長時間にもかかわらずご指導下さいました紀本電子工業の皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。

(滋賀県立大学環境科学部 丸尾雅啓)



### 第3回 提案公募型セミナー

#### 「銅の腐食解析にまつわる最近の話題」

日時：平成 19 年 11 月 13 日(火)14:00～16:30

会場：住友電気工業（株）大阪製作所西 206 会議室

2007 年 11 月 13 日(火)、住友電気工業(株)大阪製作所において、日本分析化学会近畿支部・近畿分析技術研究会主催、腐食防食協会関西支部協賛の標記セミナーが開催された。今年度 3 回目の本セミナーは、銅の腐食および解析という観点から、銅の腐食解析の議論を深めることを目的としたものである。産官学の方々、約 50 名が熱心に聴講され、活発な質疑・応答が行われた。最も古い実用金属である銅のことを改めて考えるのに、良い機会であったと思う。

開会に先立ち、住友電気工業（株）解析技術研究センターの西江センター長よりご挨拶をいただいた。本セミナーの概要と共に、銅に関わってきた弊社の歴史などを紹介された。続いて日本分析化学会近畿支部の紀本支部長（紀本電子工業株式会社社長）より、本セミナーの趣旨をご説明いただいた。

セミナーの前半では、「銅に関する最近の話題」と題して、日本伸銅協会テクニカルアドバイザー 能登谷先生（元北大）がご講演された。先生は長年、銅の腐食・防食分野の研究を続けられ、本分野での第一人者である。

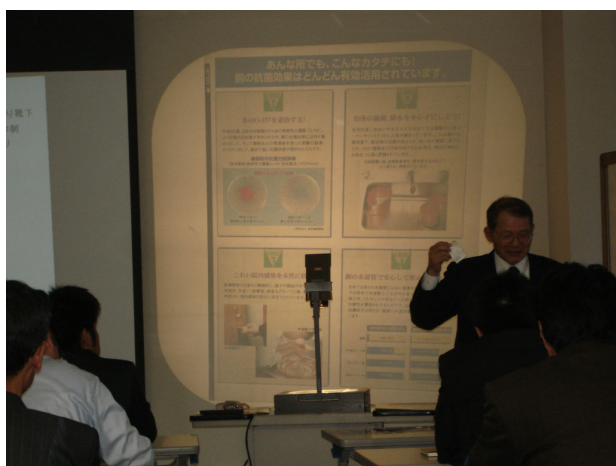
まずは銅の特徴・特性（色、音、微量必須金属であること、等々）、すなわち楽器面での優位性（音が良い）、生物には必須であること、抗菌・殺菌作用があることなど、実際の銅製品を回覧しながら解説された。古来より大変重宝されてきた金属であることがよく理解できた。引き続き、銅の腐食反応の基礎を説明された後、最近の腐食事故例をご紹介いただいた。銅材料を使った機械装置メーカー、システムのメンテナンス業者、ユーザー等、それぞれの立場での見解の違いなどが興味深かった。

続いて、先生が詳細に研究されてきた銅管の蟻の巣状腐食原因と銅系金属の防錆剤ベンゾトリアゾール（BTA）の抑制機構を解説していただいた。蟻の巣状腐食は、この言葉が示すように、銅管断面の腐食形態が蟻の巣に似ている腐食である。環境を模擬した実験および現場での分析調査から揮発性有機酸等が、この型の腐食を促進させることが世界で初めて突き止められた。また BTA は、銅製品を製造する多くのメーカーで使用されている防錆剤である。古くから腐食抑制メカニ



ズムの検討が行われてきたが、TOF-SIMS 等による解析結果に基づき、BTA 皮膜の生成にはその下に  $\text{Cu}_2\text{O}$  の存在が欠かせないことが見出された。近々BTA および関連インヒビターの解説書の出版されることになっており、この本はBTAの使用者にとって有益な情報を与えるであろう。

講演のおわりに、今シーズンの溪流釣りについて話された。ヤマベの釣果とともに餌採り、ポイント探し、魚の調理法まで報告された。北海道の大自然を感じさせる羨ましい話



ご講演中の能登谷先生

であった。

後半は、「銅表面の定量的な状態分析法」と題して、住友電気工業（株）中山（筆者）が報告した。大気中で銅表面には、通常2種類の銅酸化物（ $\text{Cu}_2\text{O}$  と  $\text{CuO}$ ）が生成する。両酸化物では、色、電気伝導度、硬さ、保護性等々、性質が異なるため、腐食解析等の目的では定量的な状態分析が重要である。表面機器分析法（XPS, XRD など）は、定性的には効力を発揮するが、定量性には問題がある。そこで古くより電気化学的な手法がとられてきた。しかしながら従来法には諸問題があった。分析法の検討を行ってきた。その結果、6 M KOH + 1 M LiOH という強アルカリ性電解液を使用することによって、両酸化物の定量的な状態分析を可能にした。

今回、メーカーの分析担当者も多く出席され、セミナー終了後の名刺交換の場などで、銅表面の評価には苦勞されているとの話を伺った。開発した分析法を「標準法」として使っていただけるよう、さらに紹介の機会を増やしたいと思う。

（住友電気工業株式会社 中山茂吉）

## 第2回 支部講演会

日時：平成 19 年 12 月 7 日（金） 15 時～17 時

会場：大阪科学技術センター 小ホール

講演：1. 「低粘性フッ化物イオン液体の性質と応用」

（京都大学大学院エネルギー科学研究科） 萩原理加

2. 「イオン液体の真空系への導入による新しい分析法と材料創製法開発」

（大阪大学大学院工学研究科） 桑畑 進

2007年12月7日（金）大阪科学技術センターにて、以下のお二人の先生方をお迎えし、「イオン液体」をテーマとした講演をしていただいた。

イオン液体を用いた研究は、近年急激に増加し、第3の溶媒として分離・分析への応用も検討されている。本講演会では、萩原先生に、物理化学・物性化学の視点からイオン液



体について、その後、桑畑先生からイオン液体の分析化学的応用例についてお話いただいた。

萩原先生の講演では、イオン液体とは何ぞや？から始まり、イオン液体に関する歴史的背景、ご自身が専門とされているフッ素系溶融塩の物性評価と工学的応用について、分かりやすく述べていただいた。特に、歴史的背景では、古くからすでに見出されている常温溶融塩（イオン液体）が、近年になって、なぜ爆発的に注目を浴びて研究されるようになったのか、報告された化合物を時系列で紹介していただきながらお話いただいた。懇親会にて、「戦略的な意味もありますよ」とお話いただいたことが印象に残った。

引き続き、桑畑先生から、イオン液体の意外な分析化学的利用についてお話していただいた。イオン液体を試料に塗付するとわかめのような膨潤した有機物でもSEMやTEMで観察できますよというお話である。高真空であることを要求するSEMやTEMでは液体含浸試料は測れないという従来の常識をひっくり返すものであった。これに関する研究は、まだ端を発したばかりで、多くの研究者の参画を期待しているとのことである。

いずれの講演も質問が相次ぎ、時間延長を余儀なくされた。参加者の関心の高さを伺わ



せるものであった。

今回の講演会は、いずれの方も他学会で活躍されている方であったが、分析化学の研究者と共通する議論は非常に多かった。今後とも広いフィールドに向かった分析化学の発展を期待したい。（支部講演会担当 京都工繊大院工芸科学 吉田裕美）

### 第3回 近畿分析技術研究奨励賞 受賞講演会

日時：平成20年1月11日（金） 15時30分～受賞式、15時30分～16時30分受賞講演会  
会場：大阪科学技術センター 4階405号室

2007年度

受賞者：和歌山大学システム工学部 精密物質化学科 門 晋平氏  
受賞研究題目：「原子間力顕微鏡による機能性分子の相互作用力測定」

2007年度の近畿分析技術研究奨励賞の応募は2件ありましたが、選考委員会に於いて厳正な選考を行っていただきました。その結果、標記のとおり、門 晋平氏が受賞の榮譽

に浴されました。授賞式当日は雨が降る天候でしたが、大阪科学技術センターの会場には近畿支部役員をはじめとして、多数の支部会員の参加者がありました。初めに、選考委員

長の京都大学大学院工学研究科教授垣内隆監事よりの選考講評を頂き、引き続き受賞者の門氏へ賞状と記念の盾が授与されました。表彰式に引き続き、受賞講演が行われました。講演内容は原子間力顕微鏡を用い、機能性化合物の金属イオン、あるいは分子捕捉における親和力を巧みに数値化され、機能性化合物の選択性を分かりやすく解明されたことでした。また、分析化学に原子間力顕微鏡を用い

る今後の展望や、期待と発展を強調されたことは印象的であった。受賞講演であるが、質疑応答が行われ、多くの方の質問があり、活発な討論が行われ、参加者の講演への興味を伺い知ることができた。講演に引き続き、懇親会が行われた。

2008年度第4回奨励賞へも多数の応募がなされ、より活発な研究奨励賞の選考が行われることを期待したい。



授賞式（日本分析化学会近畿支部長紀本氏と門氏）

\*\*\*\*\* 日本分析化学会近畿支部 \*\*\*\*\*

あとがき:ぶんきんニュースを、支部会員の皆様にお送りしておりますが、これも皆様のご協力のおかげです。これからも、皆様からご助力戴きますよう、何とぞよろしく願いいたします。ぶんきんニュースでは皆様のご意見・ご要望をお待ちしています。広く意見交換の場としてもご活用いただけますので、ご投稿などを通して、より「ぶんきんニュース」の会員皆様の活用をお待ちしております。(大植 正敏)